



DXへの取り組み

オプテックス株式会社
代表取締役社長 池田 和男
2025.7.7

目次

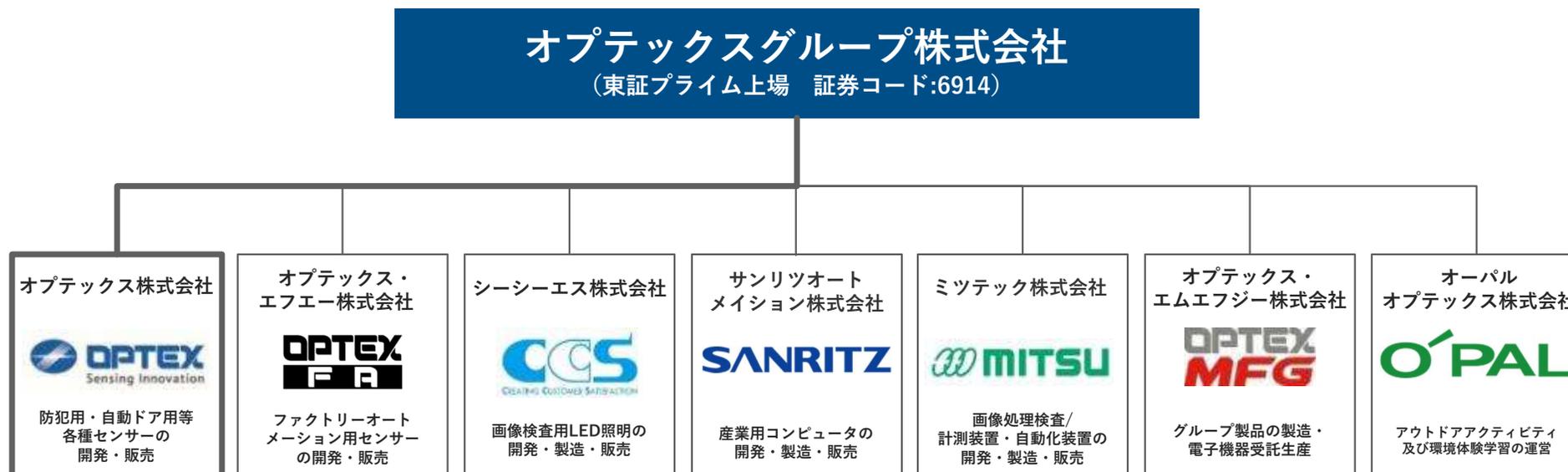
- はじめに
- Business DX
- Inner DX
- 人財の強化
- DX管理・推進体制

はじめに

- オプテックス株式会社について
- 経営理念
- 当社におけるDX
- グローバル業務改革・ビジネスモデル変革（DX経営）

オプテックス株式会社について

私たちオプテックス株式会社はグループの中核企業として、防犯・自動ドア・車両検知・環境などの分野で、センシング技術を活用した製品やサービスを提供しています。

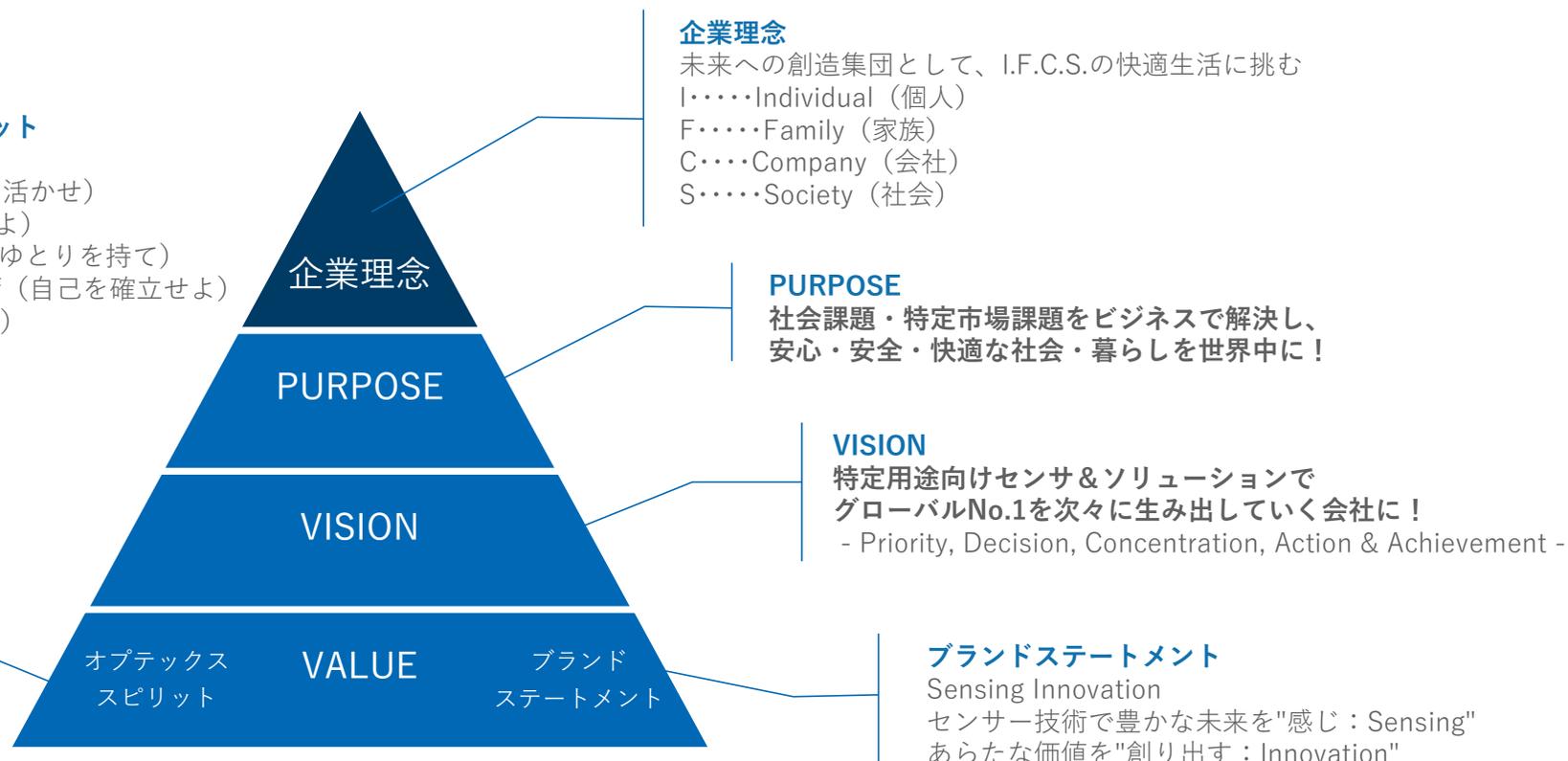


経営理念

オプテックスの使命は、センシング技術を世界の安全・安心・快適な社会づくりに役立て、より良い未来を築いていくことです。そのために、私たちは、社会の潜在的なニーズや真の課題を見出し、独自のアイデアと確かな技術力で解決手段や新たな価値を提供します。

オプテックス・スピリット

- ・ Creating (創造せよ)
- ・ Outsourcing (外部を活かせ)
- ・ Growing up (成長せよ)
- ・ Being comfortable (ゆとりを持って)
- ・ Establishing yourself (自己を確立せよ)
- ・ Dreaming (夢を持って)



当社におけるDX



今や、センサーデータの活用は産業において不可欠ものとなっており、年ごとにその重要度は増しています。

当社はこれまでのセンサー製品の提供に加え、センサーデータを活用したソリューション提案型のビジネスモデルにも注力しています。「人手不足に対応したい」「現場管理を効率化したい」といったご要望やお困りごとに対し、お客様との直接対話を通して本質的なニーズを見つけ、ときにはパートナー企業と連携しながら、お客様の価値向上につながるソリューション・サービスを提供しています。

社内においては、基幹システムやデジタルマーケティングにおいてもデータ連携を進め、経営と事業の双方でDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。

私たちは、安全・安心・快適な社会に役立ち、より良い未来を創造する集団として、お客様とともにグローバルな成長とビジネスの発展に貢献してまいります。

グローバル業務改革・ビジネスモデル変革（DX経営）



2022年4月



ビジネスモデル変革／ Business DX

- ・顧客や社会のニーズに即した、社会課題・特定市場課題を解決する、ソリューション・サービス事業（IoT活用）にビジネスモデル変革
- ・ダイレクトマーケティングに注力
- ・マネタイズ、安全運営に関する取り組み



グローバル業務改革／ Inner DX

- ・グローバルに業務のデジタル化・標準化、物流・SCM改革（ERP活用）
- ・営業活動環境、開発環境、リモートワーク環境整備（CRM、PLM、...）
- ・ビジネス環境の激しい変化に対応できるITインフラの構築、セキュリティ強化
- ・経営基盤刷新プロジェクト、など



人財の強化

- ・ Inner & Business DX 推進のためのITリテラシー向上、人財育成

Business DX

- 解決したい社会課題
- 活用例のご紹介

解決したい社会課題

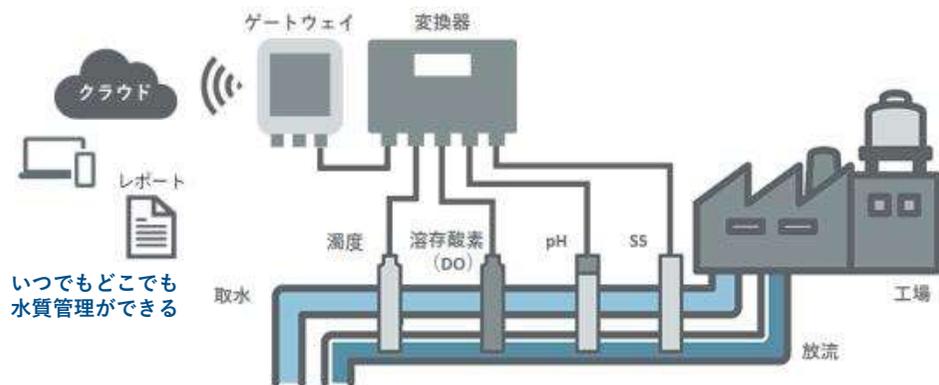
労働人口が減少している中、現場を巡回点検したり、常駐で確認するよう業務は、年々継続が困難になっています。センサーから得られるさまざまな情報を遠隔でモニタリングすることにより、オペレーションを飛躍的に効率化。現場における課題と、経営視点での課題の両方を解決し、健全な事業運営に貢献します。



活用例のご紹介

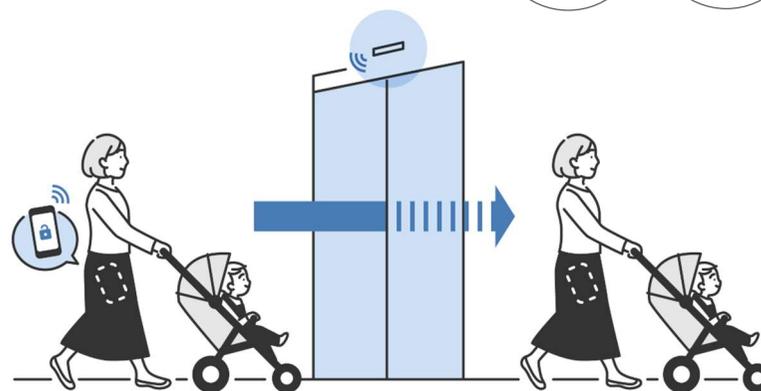
“WATER it” を利用した工場排水遠隔監視

水質測定センサーとICTを活用し、排水監視に必要なデータを測定・収集・見える化。いつでもどこでも状態を把握できる仕組みをご提供します。工場内だけでなく、遠隔地からも水質管理を行うことができます。



マンション共用部のオートロック解錠

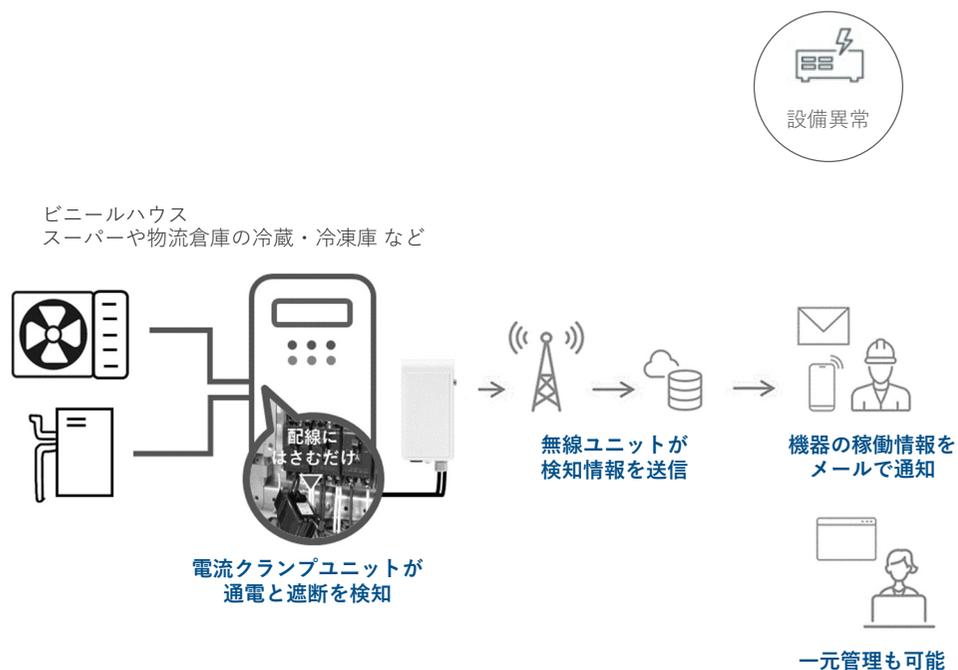
OMNICITYのスマートエントランスセンサーを活用すれば、センサーに搭載したBeaconとの通信により、通行者のスマートフォンが鍵となり、ハンズフリーでオートロックの解錠が可能になります。従来のシステムでは鍵やタグを使って解錠する必要がありましたが、両手が塞がっていても、ストレスなく手ぶらで通行できます。



活用例のご紹介

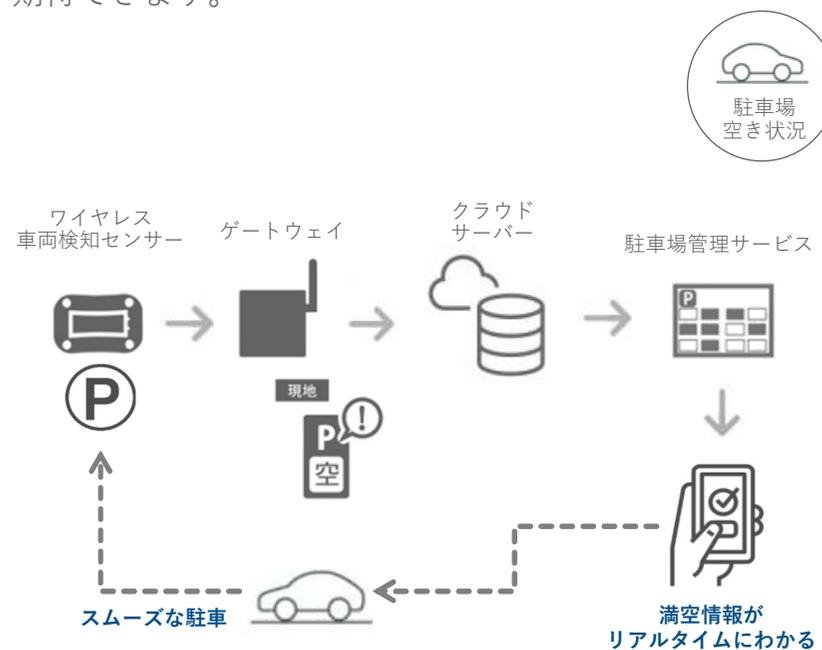
電気設備の故障・停電のリモート監視

分電盤や制御盤に電流クランプユニットをはさむだけの簡単工事で、電気設備の遠隔監視が可能になります。異常の発生を検知すると、IoT無線ユニットを介してメールで通知が送られるため、素早い初期対応が可能となり、被害を最小限に抑えることができます。



駐車情報マネジメント

当社の満空管理システムは、センサー・通信・クラウド・アプリの技術を組み合わせることで、総合的な駐車情報管理システムの構築が可能です。例えば、スマートフォンで満空状況の把握や事前予約ができるサービス。事前に満空情報を把握することができ、大規模商業施設や観光地周辺などの渋滞緩和が期待できます。



活用例のご紹介

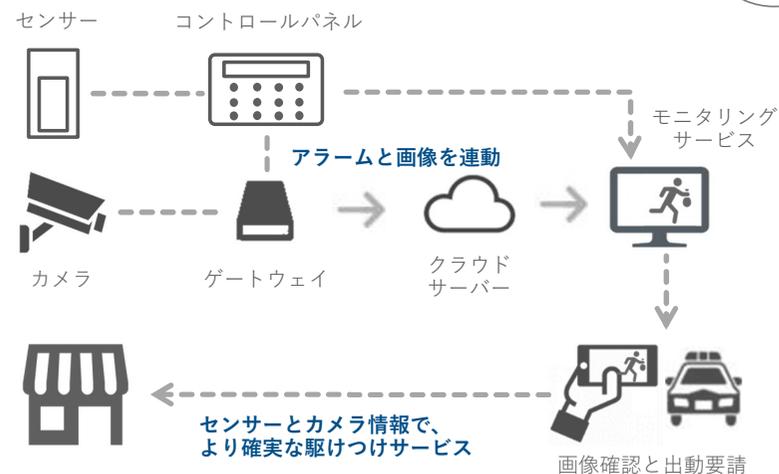
自動ドア遠隔モニタリング

自動ドアから得られるデータ（稼働情報、速度などの各種設定値、エラー情報）を提供できる自動ドアデータプラットフォームを構築しました。収集したデータを活用することで、現場から離れた場所でも自動ドアの利用状況をリアルタイムに確認でき、設備の予防保全や保守サポートの効率化を図れます。



アラームモニタリング+画像監視サービス

セキュリティ用センサーにカメラとネットワーク技術を加えることで、遠隔から確実な状況把握と対処が可能になります。モニタリング会社はセンサーから送られた侵入検知アラートに応じて、カメラ画像で現場状況を確認。ボイスワーニングや現場への駆け付け要請をするモニタリングサービスに利用されています。



Inner DX

- グローバル業務改革への取り組み
 1. デジタル化への取り組み
 2. セキュリティ強化への取り組み
 3. グローバル物流改革および業務システム統一
 4. ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）
 5. 人員配置の効率化とデータ活用の推進
 6. 変化に強いオフィスの実現

グローバル業務改革への取り組み

オプテックスはさまざまなグローバル業務改革に取り組み、経営課題の解決を進めています。

顕在化した課題



各所に経営上で重要なデータはあるが、全体として活用し切れていない



毎月の連結作業に多大な工数を消費



本社は部門最適、子会社は各社任せのIT投資



本社へのレポートはエクセル中心



物流コスト、物流LT、CS向上、それぞれ改善の余地がある



デジタル化への
取り組み

1

セキュリティ
強化への取り組み

2

グローバル
物流改革

3

業務改革
(ERP導入)

4

人員配置と
データ活用

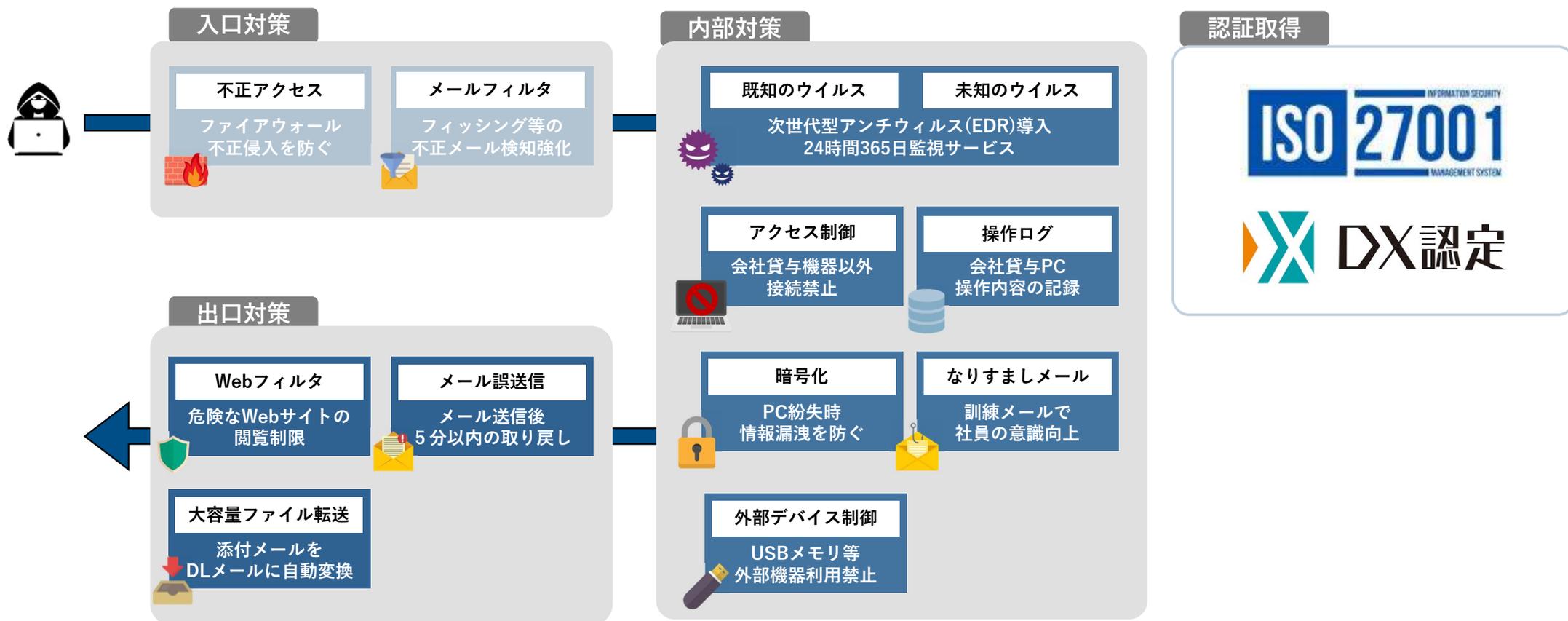
5

オフィス
環境改善

6

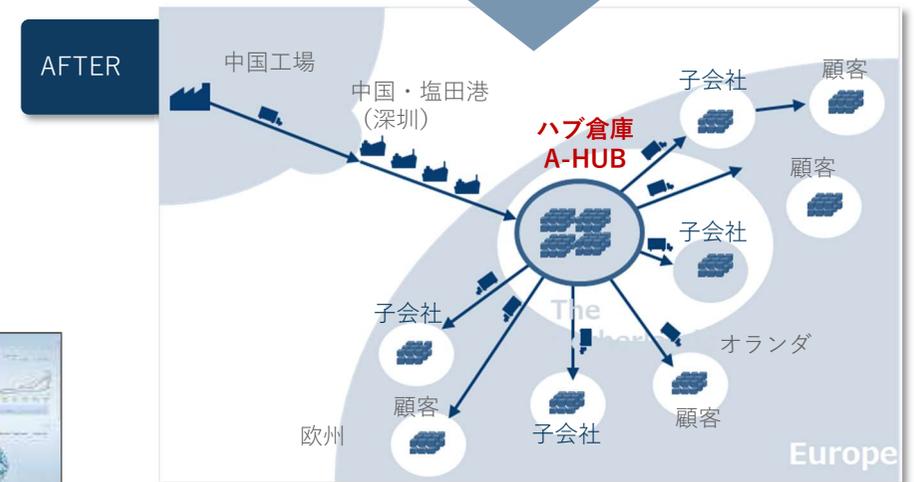
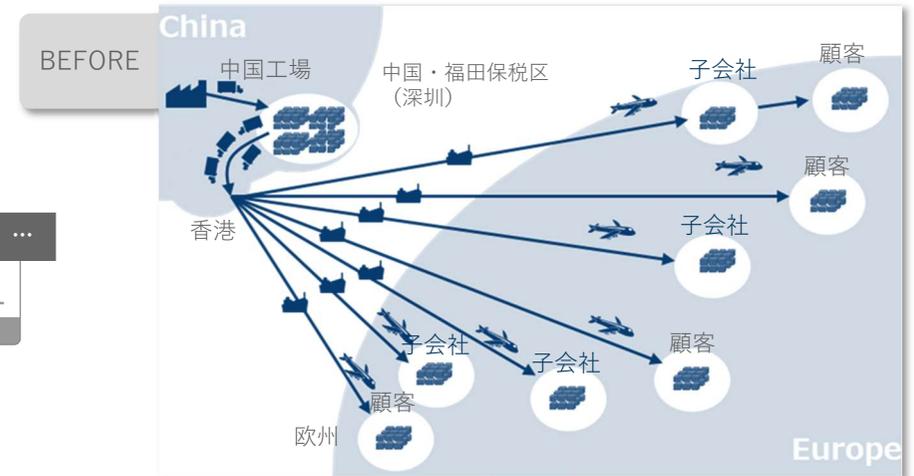
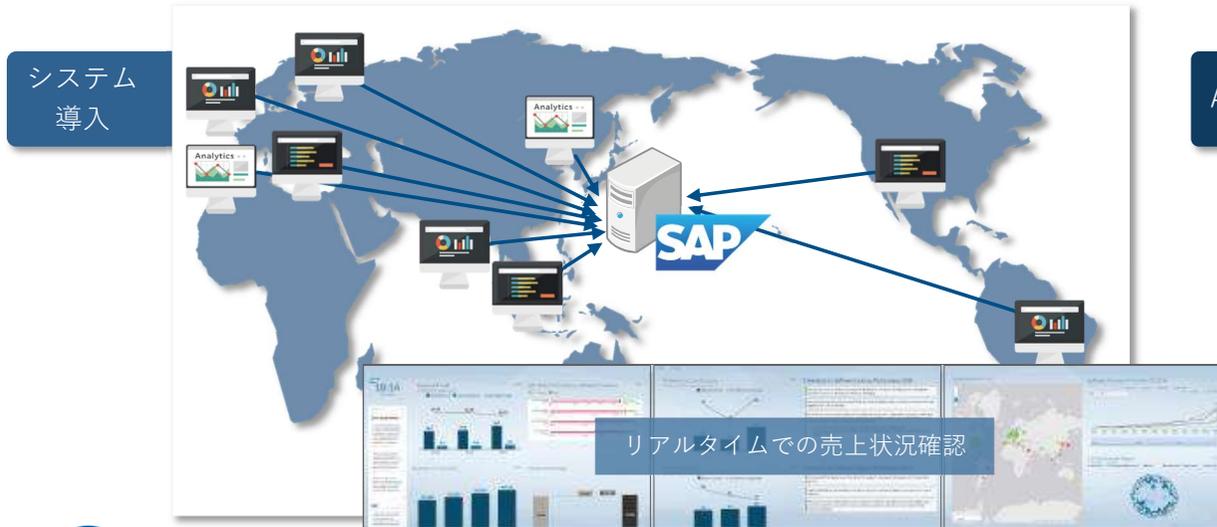
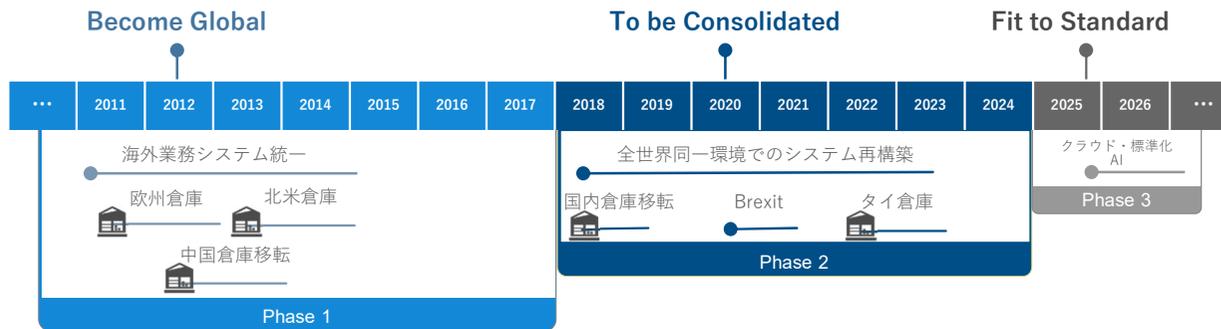
2.セキュリティ強化への取り組み

デジタル化を進めるにあたり、セキュリティの強化は欠かせません。入口から出口までのさまざまな技術的対策や社員教育による意識向上など、全方位のセキュリティ強化を図っています。また、DX認定やISO27001の認証も取得しています。



3. グローバル物流改革および業務システム統一

グローバル物流改革とグローバル業務システム導入を並行して実施し、業務標準化とシステム化によって世界的な物流量の増加に対応できる環境を整備しています。



4.ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）

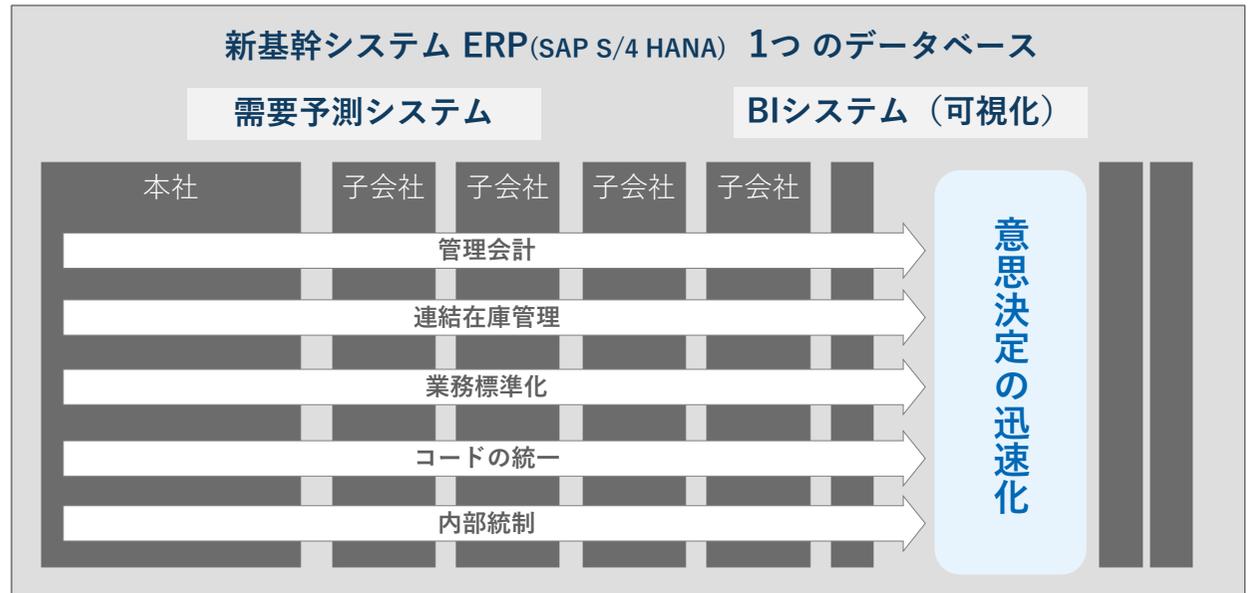
経営管理基盤の共通化により、子会社も含めた連結の状況をタイムリーに把握できるようになりました。これにより、連結視点での業務遂行やスピーディーな経営判断が可能になりました。



Before

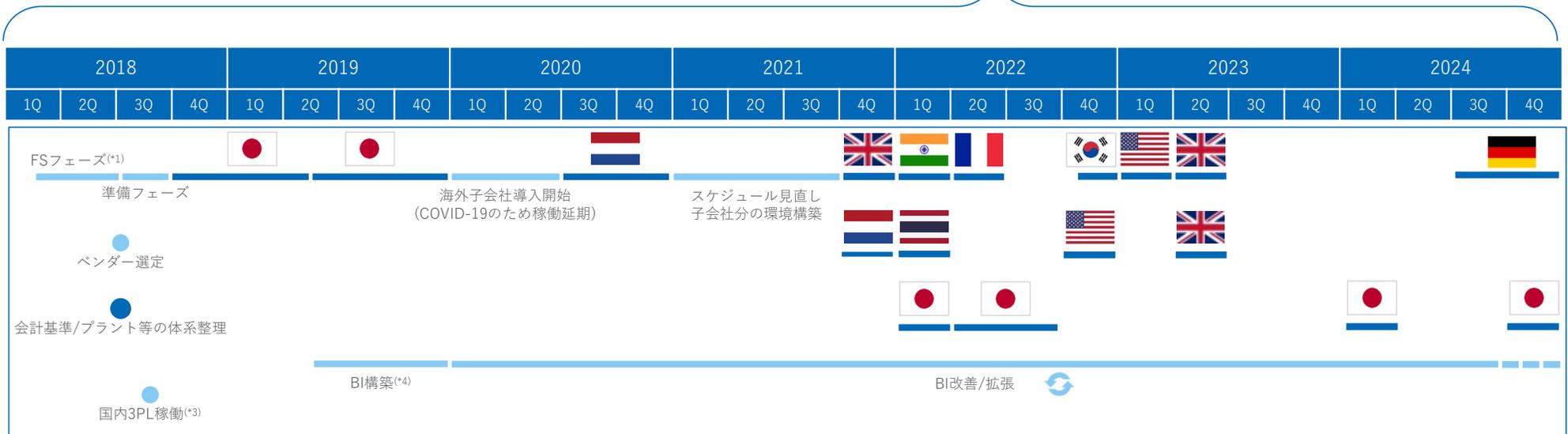


After



4.ERP導入（業務の標準化・経営判断の迅速化）

2018年から SAP S4/HANAを国内外すべてのグループ会社（15社）に順次導入し、2023年7月よりグループ全体が同じ基盤（シングルインスタンス）での運用を行っています。



(*1) フィジビリティスタディ プロジェクトの実現可能性を事前調査・検討
 (*2) 先行して会計機能（FI、CO）と、セントラルファイナンス（CFI）を稼働。

(*3) 業務標準化のため、国内3PL稼働を稼働。（海外は、欧州、香港ですでに稼働済み）
 (*4) BIツールは、SAC（SAP Analytics Cloud）。

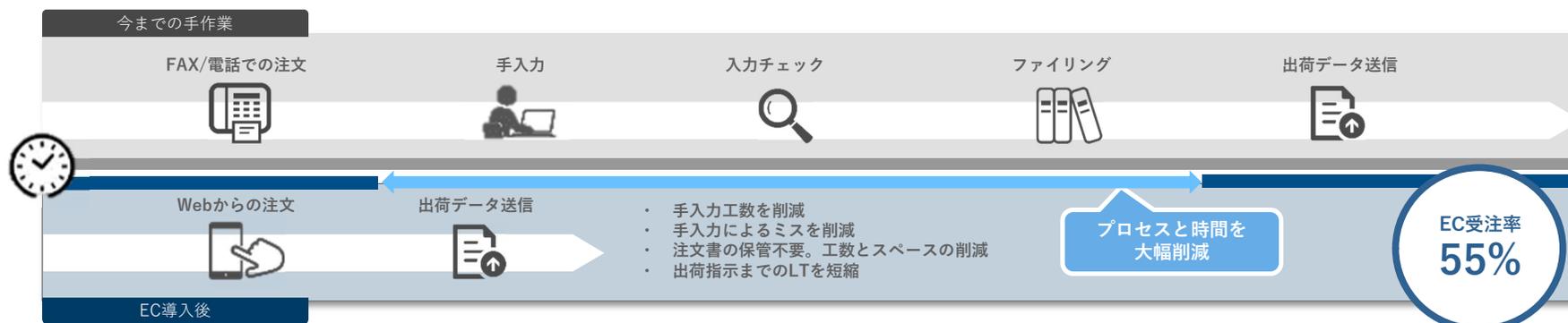
5.人員配置の効率化とデータ活用の推進

- ・業務担当一人当たりの生産性が、**約1.5倍に増加**
- ・ERPとECサイトを連携。**重複業務や紙の書類を大幅削減**

■人員配置



■ECサイト (B2B)



6.変化に強いオフィスの実現

業務のデジタル化・標準化・情報セキュリティ強化を推進した結果として、リモートワークも組み合わせた自由な働き方を選択できるようになりました。現在、本社勤務の260名のうち、8割以上がフリーアドレスで業務にあたっています。この取り組みはBCPに貢献するとともに、社員一人当たりの荷物量を7割削減し、ペーパーレスの実現を可能にしました。



人財の強化

- 中期VISION

中期VISION

私たちは毎年10%の売上成長と営業利益率20%を目標に掲げています。その目標達成に向け、8つの会社基盤を整備し、これらを推進する人財を育成することで生産性を向上させていきます。



DX管理・推進体制

- DX管理体制
- DX推進体制

DX管理体制

代表取締役社長を責任者とする以下の管理体制を構築。情報セキュリティに係る対策、指導、緊急対応及び報告を行います。

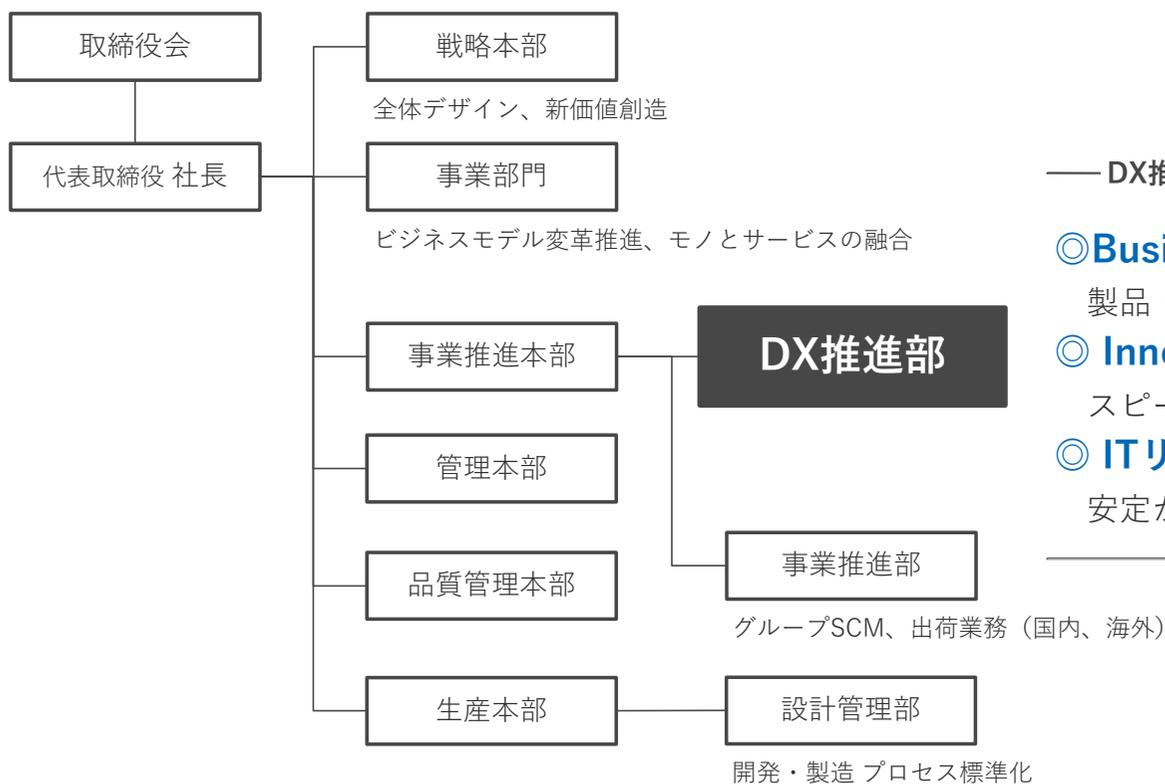
情報セキュリティ管理委員会は定期的開催され、管理・運用が適切に実施できていることを確認します。サプライチェーンにおけるセキュリティ対応も重要です。委員会メンバーである委託先統括部門から展開されます。



情報セキュリティ管理体制

DX推進体制

企業にとって、DX推進は経営課題の最も重要な課題の一つです。弊社の情報システム部門の部署名は『DX推進部』です。これはミッションの全てがDX推進であることを表しています。また、担当取締役が情報セキュリティ責任者となり、経営と一体で取り組みを進めています。



DX推進部のミッション

◎ Business DX推進

製品・サービスを支えるIT基盤の運用・維持・最適化の実現

◎ Inner DX推進

スピード経営を実現するIT基盤の構築

◎ ITリテラシー向上を含めたセキュリティ強化

安定かつ安全なIT基盤運営とセキュリティ強化

www.optex.co.jp